教科書との対応（中学一年）

教育出版『伝え合う言葉 中学国語1』p.128～132（故事成語――中国の名言――）

次の文章は、『孟子』にある話を書き下し文にしたものである。読んで、あとの問いに答えなさい。（①～⑦は文の番号）

①宋人に其の苗の長ぜざるを閔へて1之を揠く者有り。②芒芒然として帰り、其の人に謂ひて曰はく、2「今日病れたり。予苗を助けて長ぜしむ。」と。③3其の子趨りて往きて之を視れば、苗則ち槁れたり。④4天下の苗を助けて長ぜしめざる者寡なし。⑤以て益無しと為して之を舎つる者は、苗を耘らざる者なり。⑥之を助けて長ぜしむる者は、苗を揠く者なり。⑦5徒だに益無きのみに非ず、而も又之を害す。

（注）宋＝昔の中国の国の名。長ず＝のびる、育つ。閔ふ＝心配する。揠く＝引っぱる（引き抜く）。芒芒然として＝つかれてぼんやりしたようすで。其の人＝家の人。病る＝つかれる。予＝わたし。趨る＝走る。槁る＝かれる。寡なし＝少ない。益＝役に立つこと。舎つる＝ほうっておく。耘る＝草をとる。徒だに～のみに非ず＝ただ～だけではない。

（『孟子』による）

問一 「閔へて（うれへて）」「謂ひて（いひて）」を現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで書きなさい。

閔へて

謂ひて

問二 1「之」は何を指しているか。本文中から一字で抜き出しなさい。

問三 2で、宋人が「病れたり（つかれた）」と言っているのはなぜか。「苗」ということばを使って、二十字以上、三十字以内で書きなさい。

問四 2の「予苗を助けて長ぜしむ」は、白文では「予助苗長」となる。返り点のつけ方として正しいものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 予助苗長レ　イ 予助苗長レ　ウ 予助苗長二一レ　エ 予助苗長レ

問五 3「其の子」とは、だれの子か。本文中から二字で抜き出しなさい。

問六 ③で、子が畑へ走って行って見た苗は、どうなっていたか。現代語で、十字以内で書きなさい。

問七 4「天下の苗を助けて長ぜしめざる者寡なし」の意味として最も適切なものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　世の中には、苗を無理にのばそうとしない人が多い。
イ　世の中には、苗を無理にのばそうとしない人は少ない。
ウ　世の中には、苗を育てる人そのものが少ない。
エ　世の中の人は、だれも苗を育てようとしない。

問八 ⑤・⑥で、孟子は二種類の人を比べている。⑦5「徒だに益無きのみに非ず、而も又之を害す」と言われているのは、どちらの人か。最も適切なものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　役に立たないと思って苗をほうっておき、草取りもしない人。
イ　苗を助けてのばそうとして、苗を引っぱる人。
ウ　苗を引っぱった父親の話を聞いて、畑へ走って行った人。
エ　苗がのびないのを心配して、家の人に相談した人。

問九 ⑥の「苗を揠く者なり」は、白文では「揠苗者也」となる。書き下し文の読み方になるように、次の白文に返り点をつけなさい。

揠　苗　者　也

問十 次の語の意味として最も適切なものを、あとのア～エからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

a　天下（④）　b　則ち（③）

ア　世の中　イ　空の下　ウ　すると　エ　しかし

a

b

問十一 ①の「閔へて之を揠く」は、白文では「閔……而揠之」のように「而」の字がある。この「而」は書き下し文には書かれていない。このような字を何というか。漢字三字で書きなさい。

問十二 故事成語「助長」の、もとの意味として最も適切なものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　成長をじっと待つこと。
イ　よけいな力ぞえで、かえって害すること。
ウ　協力して仕事をやりとげること。
エ　苦労の末に成功すること。

問十三 「助長」を、この話から生まれたもとの意味で使っている文として最も適切なものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　夜ふかしが、朝ねぼうのくせを助長している。
イ　弟の工作に手を出しすぎてこわした。まさに助長だ。
ウ　地域の人の助長で、公園の花だんが完成した。
エ　練習を助長したので、試合に勝てた。

問十四 この話は、どのようなことを教えていると考えられるか。「早く」「かえって」という二つのことばを使って、三十字以上、四十字以内で書きなさい。

解答と解説

故事成語 標準② 助長（孟子）

内容の読み取り

問一 閔へて　うれえて　　謂ひて　いいて

【根拠】①「閔へて」、②「謂ひて」。【読み方】語の頭以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」は「わ・い・う・え・お」に直す。「うれへて」の「へ」→「え」、「いひて」の「ひ」→「い」。【まちがえやすい点】「うれいて」「いって」と、今のことばの形に変えてしまうまちがい。仮名遣いの問題は、かなだけを直し、ことばの形は変えない。

問二 苗

【根拠】①「其の苗の長ぜざるを閔へて之を揠く」。【読み方】「之（これ）」は、すぐ前に出てきた物を指す。宋の人が心配していたのは「苗がのびない」こと。そこで引っぱったのは「苗」。指示語の答えは、元の文に当てはめて「苗を揠く（苗を引っぱる）」と意味が通るか確かめる。【まちがえやすい点】「宋人」とするまちがい。「揠く」の動作をしたのが宋人で、引っぱられたのが苗。

問三 （例）苗が早くのびるように、苗を一本ずつ引っぱって回ったから。

【根拠】①「苗の長ぜざるを閔へて之を揠く」、②「予苗を助けて長ぜしむ」。【読み方】つかれた理由は、その前の行動に書かれている。苗がのびないのを心配して、苗を引っぱった（手伝ってのばしてやった）ことが、一日の仕事になった。採点のポイント：①苗がのびるようにという目的、②苗を引っぱったという行動、③文末「から。」。【まちがえやすい点】「田畑の草取りをしたから」とするまちがい。草を取らないのは⑤の別の人のこと。

問四 ア

【根拠】書き下し文「予苗を助けて長ぜしむ」の読む順は「予→苗→助→長」。【読み方】「助」は一字下の「苗」を読んでから返るので、「助」にレ点。「長」は最後にそのまま読む。【まちがえやすい点】イ：「予→助→長→苗」の順になる。ウ：「予→苗→長→助」と、「長」を先に読んでしまう。エ：「助」から「予」に返り、「予」が最後になる。返り点の問題は、選択肢ごとに読む順を書き出して、書き下し文と比べる。

問五 宋人

【根拠】①「宋人に……者有り」、②「其の人に謂ひて曰はく」。【読み方】③の「其の子」の「其の（その）」は、前に出てきた人を指す。①〜②の話の中心は、苗を引っぱった宋人。その宋人が家の人に話したのを聞いて、子どもが畑へ走って行った。【まちがえやすい点】「其の人」とするまちがい。②の「其の人」は家の人で、③の「其の子」はその家の子＝宋人の子。指す人を、本文の人物の名前（ここでは「宋人」）で答える。

問六 （例）かれてしまっていた。

【根拠】③「苗則ち槁れたり」。【読み方】「槁る（かる）」は、草木がかれること。「則ち」は「すると（もう）」。宋人が苗を引っぱったために、苗はかれてしまった。【まちがえやすい点】「大きくのびていた」とするまちがい。宋人は「のびるように助けた」つもりだったが、結果は反対だった。この食いちがいが、話のおもしろさの中心。

問七 イ

【根拠】④「天下の苗を助けて長ぜしめざる者寡なし」。【読み方】一語ずつ区切る。「苗を助けて長ぜしめ（無理にのばそうと）」＋「ざる（しない）」＋「者（人）」が「寡なし（少ない）」。つまり、「無理にのばそうとしない人は少ない」＝多くの人が、宋人と同じようなことをしてしまう、という孟子の意見。【まちがえやすい点】ア：「ざる（打ち消し）」と「寡なし」を両方とも訳さないと、意味が逆になる。打ち消しのことばに印をつけて読む。

問八 イ

【根拠】⑥「之を助けて長ぜしむる者は、苗を揠く者なり」、⑦「徒だに益無きのみに非ず、而も又之を害す」。【読み方】⑦は「ただ役に立たないだけでなく、そのうえ害をあたえる」。⑤の、苗をほうっておく人は「役に立たない」だけだが、⑥の、無理に助けてのばそうとする人は、苗をかれさせて「害」まであたえる。だから⑦は⑥の人について言っている。【まちがえやすい点】ア：草取りをしない人も「益無し」だが、苗をかれさせてはいない。「害す」までしたのは、引っぱった人。

問九 揠苗者也（「揠」の左下にレ点）

【根拠】書き下し文「苗を揠く者なり」の読む順は「苗→揠→者→也」。【読み方】書き下し文の順に白文の字へ番号をふる（揠2・苗1・者3・也4）。「苗」を読んでから一字上の「揠」に返るので、「揠」にレ点。「者」「也」は順に読むので返り点はいらない。「也」は書き下し文では「なり」とひらがなにする。【まちがえやすい点】「苗」にレ点をつけるまちがい。レ点は、あとから読む字（返っていく先の字）の左下につける。

問十 a ア　b ウ

【根拠】a④「天下の苗を助けて長ぜしめざる者寡なし」。b③「之を視れば、苗則ち槁れたり」。【読み方】a「天下」は、天の下にあるすべての所＝世の中・世間。ここでは孟子が、世の中の人一般について意見を言っている。b「則ち」は、前のことがらを受けて「そうすると・そこで」とつなぐことば。「見ると、（もう）かれていた」。【まちがえやすい点】aを字のとおり「空の下」とするまちがい。bを「しかし」とするのは、前と反対のことを続けるときのことばで、ここには合わない。

テストの形

問十一 置き字

【根拠】白文「宋人有閔其苗之不長而揠之者」の「而」は、書き下し文「閔へて之を揠く」には出てこない。【読み方】「而」は、前と後ろをつなぐ働きの字。「て」などの送り仮名でつなぎ方を表すので、字そのものは読まない。このような字を置き字という（ほかに「於」「于」「矣」「焉」など）。【まちがえやすい点】⑦の「而も（しかも）」のように、同じ「而」でも送り仮名をつけて読む場合がある。読むか読まないかは、書き下し文に出てくるかどうかで確かめる。

問十二 イ

【根拠】⑥・⑦苗を「助けて長ぜしむる者」は、役に立たないだけでなく「之を害す」。【読み方】故事成語の意味は、話の結末から考える。苗を早くのばそうと手を出した結果、苗はかれた。ここから、必要のない手助けをして、かえって悪くしてしまうことを「助長」というようになった。【まちがえやすい点】ア：これは⑤の、ほうっておく人に近い。「助長」は手を出しすぎるほう。ウ・エ：本文に協力や成功の話はない。

問十三 イ

【根拠】もとの意味＝よけいな力ぞえをして、かえって害をあたえること（問十二）。【読み方】話の中の「苗を早くのばそうと引っぱって、かれさせた」と同じ形（よかれと思って手を出す→かえって悪くなる）になっている文をさがす。イは、手伝うつもりで手を出しすぎ、工作をこわしてしまっている。【まちがえやすい点】ア：今は「ある傾向（多くはよくない傾向）を、いっそう強める」という意味でも使われ、アはこの使い方。正しい日本語だが、問われているもとの意味ではない。ウ：「協力」の意味。辞書には「力をそえて成長や発展を助けること」という意味ものっているが、この話のもとの意味ではない。エ：「練習を助長する」は使い方としておかしい。

問十四　（例）早く結果を出そうとして無理なことをすると、かえって物事をだめにしてしまうということ。

【根拠】①～③の話（苗を早くのばそうと引っぱり、かれさせた）と、⑦孟子のまとめ「而も又之を害す」。【読み方】たとえ話の教えは、①何をしようとして、②どんなやり方をし、③どんな結果になったか、を一般的なことばに言いかえてまとめる。採点のポイント：①早く結果を求めて無理をする（よけいな手出しをする）こと、②かえって悪い結果になること。二つそろって正解、一つだけは部分点。文末は「～ということ。」。【まちがえやすい点】「苗は引っぱってはいけない」のように、苗の話のままで終わるまちがい。苗の話を、だれにでも当てはまる教えに言いかえる。

【現代語訳】①宋の国の人で、自分の（田の）苗がのびないのを心配して、苗を引っぱる者がいた。②（その人は）つかれてぼんやりとしたようすで家に帰り、家の人に向かって言うことには、「今日はつかれた。わたしは苗を助けてのばしてやったよ。」と。③その（人の）子が走って行って苗を見ると、苗はもうかれていた。④世の中に、苗を（無理に）助けてのばそうとしない人は少ない。⑤役に立たないと思って苗をほうっておく人は、苗の草取りをしない人である。⑥苗を（無理に）助けてのばそうとする人は、苗を引っぱる人である。⑦（そういう人は）ただ役に立たないだけでなく、そのうえ苗に害をあたえている。

（教科書によっては「病れぬ」「長ぜしめたり」「而して」など、読み方が少しちがうこともある。）

【テストに出るポイント】

・仮名遣い：閔へて→うれえて、謂ひて→いいて、曰はく→いわく。
・指示語「之」：①・③は「苗」。⑤・⑥の「之」も苗を指す。
・宋人のねらい（苗を早くのばしたい）と結果（苗がかれた）の食いちがい。
・孟子の意見：ほうっておく人は「益無し」、無理に助ける人は「益無きのみに非ず、而も又之を害す」。
・置き字「而」：「閔へて之を揠く」の「而」は読まない。⑦「而も」は読む。
・故事成語「助長」：もとの意味は、よけいな力ぞえをして、かえって害すること。今は「よくない傾向をいっそう強めること」の意味でもよく使う。

【もっと知ろう】『孟子』は、中国の戦国時代の思想家、孟子のことばや行いをまとめた書物。この話は、心（気力）を育てるときも、あせって無理に育てようとしてはいけない、ということを説明するたとえとして語られている。

【白文と書き下し文の対照】（白文の句読点は、わかりやすいようにつけたもの）

①宋人有閔其苗之不長而揠之者。／宋人に其の苗の長ぜざるを閔へて之を揠く者有り。
②芒芒然帰、謂其人曰、今日病矣。予助苗長矣。／芒芒然として帰り、其の人に謂ひて曰はく、「今日病れたり。予苗を助けて長ぜしむ。」と。
③其子趨而往視之、苗則槁矣。／其の子趨りて往きて之を視れば、苗則ち槁れたり。
④天下之不助苗長者寡矣。／天下の苗を助けて長ぜしめざる者寡なし。
⑤以為無益而舎之者、不耘苗者也。／以て益無しと為して之を舎つる者は、苗を耘らざる者なり。
⑥助之長者、揠苗者也。／之を助けて長ぜしむる者は、苗を揠く者なり。
⑦非徒無益、而又害之。／徒だに益無きのみに非ず、而も又之を害す。

（①・③・⑤の「而」と、文の終わりの「矣」は読まない字（置き字）。⑦の「而」は「而も」と読む。）

【使い方の例】

・「よかれと思って毎日つきっきりで教えたが、かえって弟のやる気をなくしてしまった。まさに助長だった。」（もとの意味）
・「スマートフォンの使いすぎが、ねぶそくを助長している。」（よくない傾向を強める、という今の使い方）